

稈麦新種品「ハヤウレハダカ」について†

桐山 毅*・井手 義人*・吉富 研一*・林田 進*
溝口 徳三郎◎・住江 四津男△・藤吉 正記□・渡辺 郁男●

KIRIYAMA, T., IDE, Y., YOSHITOMI, K., HAYASHIDA, S., MIZOGUCHI, T., SUMIE, Y., FUJIZOSHI, M. & WATANABE, I. On the New Variety of Naked Barcey, Hayaurchadaka

1954年品種の育成を完了し、1955年大分県において奨励品種に採用普及されるに至つたので、育成の経過及び特性の概要について述べて参考にする。

れる。但し余り肥沃な土地では倒伏の危険があるので注意すべきである。なお、その他四国全県を初め三重、兵庫、静岡の各県でも良好な成績を示した。

来歴及び育成経過

1943：(交配) 赤神力×一早生 } 農林省農試九州小
1944～46： F₁～F₃ } 麦試験地
1947～50： F₄～F₇ } 農林省熊本農事改
良実験所
1951～54： F₈～F₁₁ } 九州農業試験場
1947 生産力検定予備試験に納入
1950 西海稈2号なる系統名をもつて種子配付
1954 稈麦農林11号に登録、ハヤウレハダカと命名

第1表 特性表 (1951～53)

項 目	成熟期	稈長	穂長	五糶穂 〇間数	千粒重	粒の 大小	品質
	月日	cm	cm	本	g	粒大	
ハヤウレハダカ (比較)早生稈 (参考)2号熊島	5.17 5.16 5.22	90 95 86	6.4 5.9 4.1	246 224 225	25.9 27.0 24.3	稍大 大 中	中上 中 中下

特性概要 ハヤウレハダカは早

生稈より2～3日晩い早生品種で、稈は早生稈より稍短いが穂は大きく、穂数も多い。脱粒性、粒着共に中位で芒は長い。倒伏には余り強くないが早生稈よりは強い、赤黴病並に白濁病耐病性は早生稈程度で、小銹病及び黒銹病には相当の耐病性を有するが、萎縮病に対しては余り強くない。

第2表 耐病性その他

項 目	赤 黴 病		萎 縮 病	小 銹 病		黒 銹 病	白 濁 病	倒 伏 性
	鹿屋	宮崎	愛媛	九農試	長崎	九農試	九農試	
ハヤウレハダカ	+	±	+	++	強	+	+	稍弱
(比較)早生稈	++	±	+	++++	中	++	+	弱
(比較)2号熊島	+	+++	±	+++	中	++	+	稍強

収量は早生稈より多収で、且つ中生種の2号熊島より、年度によつては晩生種より増収する機会が少くない。子実は稍大粒で品質は良好で早生稈より優れている。

第3表 収量成績

(イ) 九州農試及び大分縣農試における成績

項 目	九州農試(1951～53)			大分農試		
	標 肥		多肥	標 肥		多肥
	子実重	比率		(1952～53) 子実重	比率	
ハヤウレハダカ (比較)早生稈 (標準)2号熊島	109.6 87.2	109 86	103 90	97.5 80.4	118 93	121 100
(比較)早取稈 (標準)改良稈	100.8	100	100	82.0	100	100

適地 従来の各種試験並に関係各県における試作成績の結果より、主として九州平垣部の水田裏作並に中山間地域の相地帯に適するものと思われる。特に早熟なる点より苗代及び蔬菜の前作に利用し、また災害回避の面より一部晩生地にも帯普及し得るものと考えら

(ロ) 関係縣における成績 標準品種より多収を示した縣 福岡(125%)、佐賀(119%)、長崎(110%)、熊本(119%)、宮崎(101%)、鹿児島(120%)

標準品種より少収を示した縣都城分場(91%)

†詳細は九州農業試験場彙報：3(1955)2に報告
*九州農業試験場 *熊本縣農業改良課
◎島根縣農業試験場 △昭和24年8月死亡
□福岡縣農業試験場 ●長野種畜牧場